

令和４年度 千歳市市民評価会議議事録

会 議 名	市民評価会議（第５回）		
日 時	令和４年６月３０日（木）１４：００～１７：００	場 所	市役所第２庁舎２階 会議室５・６
出 席 者	市民評価委員 ７名、アドバイザー １名、説明者 ６名、事務局 ３名		

評価対象 施 策	（１）優良農地の確保 （２）母子保健対策の充実
会議概要	２施策について、施策評価表に基づき事業担当課が説明を行った後、評価委員が事業担当課にヒアリングを実施し、評価及び評価結果に対する議論を行った。

ヒアリング・評価内容

（１）優良農地の確保

ヒアリング

【委員Ａ】

農業用排水路の維持に市所有設備等を貸与しているが、整備された機器等の活用状況について教えてほしい。

【説明者】

農業用排水路は、５・６月から１１月中旬くらいまで草が生えていることから、整備された機器等については、基本的にずっと動いている状態である。

【委員Ａ】

昨今の経済状況から、縮小や離農するといった農業者が増加する可能性があるが、遊休農地発生防止の取組について教えてほしい。

【説明者】

農業委員会の委員及び事務局、ＪＡ職員が中心となって、遊休農地発生防止の取組期間としている８月～１１月に農地パトロールを行っている。遊休農地と判定された場合は、指導を行っている。

【委員Ｂ】

優良農地の条件は何か。また、離農した方の土地が優良だった場合、どのように確保を行っているのか。

【説明者】

優良農地は、まとまった土地で統一的に耕作ができるという生産性の高さを条件としている。この施策における「優良農地の確保」というのは、市内にある農地を優良な状態で維持していくことをいう。遊休農地などに関しても、他の関係課と連携しながら取り組んでいる。

【説明者】

土地改良事業というのは、国や地域の視点から見ると、重要な食糧施設安置所を作るという公共的性格を持っている。所有者の視点から見ると、生産性が上がるなどの利益につながる性格を持っている。担当課としては、公共的な意味合いでこの事業を実施している。

【委員Ｃ】

評価表の「１．取組の方向」の４において、「農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮」とあるが、千歳市では、多面的機能の事業について、具体的にどのようなことを行っているのか。

【説明者】

市内には9つの組織があり、それぞれが資源向上や農地維持、環境保全、草刈りなどを行っており、当課はそれらを支援している。

【委員C】

評価表の「3. 施策を構成する事務事業の評価」の事中評価では、7つの事業の方向性について、「拡充」「維持」との記載があるが、それぞれの判断理由について教えてほしい。特に「拡充」については、どのような点を拡充しようと考えているのか。

【説明者】

「維持」としたものは、他の事業に対しての負担金事業である。「拡充」とした多面的機能の事業については、目標は達成されているが、まだ実施していない地域があり、今後実施していきたいと考えている。そのほかについても、いままで財政状況を加味しながら施設の老朽化対策を行い、維持管理をしてきたが、施設の老朽化がかなり進んでいるため、費用的な面での「拡充」としている。

【委員D】

千歳市の農業でメインとなっている品種はどのようなものがあるのか。先ほど排水機場の説明があったことを考えると米なのかと思ったが、千歳市にはいろいろな作物を育てている農家さんがたくさんいる。

【説明者】

千歳市では、水田が減っており、畑に転換しているものが多いと思う。具体的にどの品種ということはなく、農地の区画整備など、作業効率を上げるために基盤を作っている。

【委員D】

優良農地を確保するために様々な整備を行っているとのことだが、何を育てるのか把握せず、生産性や効率性を上げるための整備を行うことはあまり意味がないのではないのか。千歳市の農業で何がメインとなっているのか把握したほうがよいと思うのだが、そういうことではないのか。

【説明者】

あくまでも本施策は農業基盤の整備を目的としたものであり、具体的にどの作物の生産を推進しようとするものではない。各々の土地によって、生産性や効率性が上がるように整備している。

【委員D】

7つの構成する事業があるが、それぞれがどんな作物を育てるために実施されているのか把握する必要があるのではないのか。千歳の農業従事者が何を作っているのか把握していない状況で、この施策を行う目的がわからない。

【委員B】

この施策がどのような結果につながったのかはわからないが、生産できるように整備はしているということか。

【委員E】

多面的機能の維持という意味はわかるが、事業内容が多面的機能の維持にどのようにつながっているのか。また、担当課としては、どういう解釈で推進しているのか教えてほしい。事業費も高い。

【説明者】

多面的機能とは、農地の景観や自然環境、国土保全など各種ある。例えば、雨が降ったときに地下に水を蓄えることや、水田の場合は、そこに小さなダムを設置することなどがある。また、それを保つために、草刈りや周辺の環境維持をしている。事業費が高いということについては、農地の面積に対しての単価基準があり、それに応じた金額となっている。

【委員E】

実際に市が持ち出している費用はどの程度か。

【説明者】

50%が国、25%が道、25%が市である。

【委員 D】

事業内容は理解できるが、「優良農地の確保」ということは、今あるものを良くする又は保っていくということであるから、何か基準があるはず。具体的な目的や基準を示してほしい。

【説明者】

具体的な農業の振興については、農業振興課が担当している。

【アドバイザー】

農業振興課で強化したい作物があった場合、共有されているのか。

【説明者】

強化したい作物については、土地所有者からの要望に応じて、土地改良事業団や農協と連携をしながら実施している。

【委員 A】

この施策は、農業振興公社の関与はあるのか。

【説明者】

関与はしていない。

【委員 E】

感想になるが、この手の事業はクローズなイメージがある。市民評価会議では、一般市民に対する理解を得られるように、市民生活との関連など、わかりやすく示してほしい。行っている事業は良いと思うが、それがどこに結びついているのか市民にわかりやすく説明する必要がある。

今後の方向性は「拡充」となっているが、何をしていきたいのかについて、具体的な説明や基準が必要である。

【説明者】

費用的な面で拡充したいと考えている。また、多面的機能の事業に関しては、まだ実施できていない地域に対して、今後取り組んでいきたいという思いがある。

【委員 E】

市の予算折衝の際にも具体的なものを示すことが求められると思う。市民評価委員会で事業の拡充を応援するためにも、具体的に示してほしい。

【アドバイザー】

例えば、施設の老朽化の場合、耐用年数を過ぎていることや、改修にはいくら必要なのか、改修することでどんなメリットがあるのかなど、拡充するための計画があるとよい。また、多面的機能の事業では、実施できていない地域があると説明があったが、それもマップなどで示すなど、目に見えるようにしていただくと市民にとってわかりやすい。

土地改良事業について、平成 30 年に胆振東部地震があった際、厚真・安平・鶴川などのように暗渠がゆがむなどの被害はなかったのか。

【説明者】

用水設備に影響はあったが、その際に対応しており、そのほかは特にはない。

評価

【委員 A】

評価表の指標に「土地改良事業実施面積」とある。千歳市強靱化計画では、具体的に実績面積が右肩上がりで記載されているが、担当課からは、その説明がなかったのもったいないと思った。今回の説明は、農地の現状維持に重きが置かれていた。

【委員 B】

多面的機能の事業と農地がどのように結びつくのかイメージできなかった。

【委員 C】

今後の方向性を「拡充」としていたので、その理由を具体的に示してもらいたく、どのような点を拡充したいのか事前質問シートに記載した。施設の老朽化の状態や具体的な更新の必要性、多面的機能の事業に関する実施率などがあればよかった。

【委員 F】

「拡充」とするならば、今後の計画性が重要。

【委員 E】

「維持」であればよいが、「拡充」であれば具体的な理由をわかりやすく示してほしい。

【委員 A】

今後の千歳の農業の計画が見えない。千歳市の農地の状況を把握するために、道央農業振興公社などの情報をおさえておく必要がある。

【委員 E】

千歳の農業のベースに関わっているのだから、自分の業務が最終的にどうつながっているのか把握したほうがよい。

「拡充」の具体的な理由については、再度説明を求めたい。

—意義なし—

(2) 母子保健対策の充実

ヒアリング

【委員 A】

市民アンケート（18 歳以上 29 歳未満）では、「支援や給付の少なさに驚いた」「子育て世代に良い環境だと聞いて越してきたが今のところそうは思わない」とある。保険制度を補完する子育て支援施策（ちとせ版ネウボラ等）が浸透していない、もしくはニーズに合致していないと見受けられるが、現状の支援策の進捗と今後の展望について伺いたい。

【説明者】

本市では、令和 2 年度から 6 年度までを計画期間とする「第 2 期千歳市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、庁内 8 部 24 課が連携して 128 の事業を一体的に展開しているところである。各事業の進捗については、子育て世代や子育てに関する民間事業者などで構成する「千歳市子ども・子育て会議」を毎年開催し、進捗状況の確認・評価を行っている。同会議では、各事業について「達成・実施」を「A」、「達成に近い・大半を実施」を「B」、「未達成に近い・僅かに実施」を「C」、「未達成・未実施」を「D」の 4 段階で評価しており、令和 2 年度の事業進捗状況については、全体の 79.7%にあたる 102 事業が A 評価、13 事業が B 評価、3 事業が C 評価、10 事業が D 評価となっている。なお、C 評価及び D 評価となった 13 事業については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、事業を縮小・中止したものである。また、令和 3 年度の評価については、本年 11 月頃に開催を予定している「子ども・子育て会議」において、評価をいただくこととなっている。母子保健対策も、「子ども・子育て支援事業計画」に位置付けられており、法で定められた乳幼児健診をはじめ、妊婦さんを含めた母子や家族の心身の健康の保持増進や育児不安の軽減などの支援を行っており、ちとせ版ネウボラ開始以降も産婦健康診査と民間委託による産後ケア事業開始、新生児聴覚検査の開始など事業の充実を図っている。

今後の展望については、令和 5 年度に子育て世帯を対象にアンケート調査を実施し、子育ての実態と支援に関するニーズを把握するほか、アンケートの結果を踏まえ、令和 6 年度に令和 7 年度から 11 年度を計画期間とする「第 3 期子ども・子育て支援事業計画」を策定することとしており、同計画を着実に実行することにより、ニーズに沿った子育て支援の一層の充実を図っていきたいと考えている。近年は、母子保健対策を通じて、児童虐待の予防・早期発見につなげていくことが必要といわれており、当課としても、妊婦さんや母子、家族の心身の健康の保持増進や、

育児の不安軽減などの支援により、虐待予防の視点からの支援を行っており、今後も対策を継続していきたいと思っている。

【委員 C】

評価表の「2.指標の推移と目標達成見込み」の「4 ネウボラ利用者の不安軽減率」の指標について、現在ネウボラを利用している方は年間何名程度いるのか。また、主な相談内容やそれに対してどのような支援やアドバイスを行っているのか教えてほしい。

【説明者】

令和3年度におけるネウボラの年間利用者数は、妊婦ネウボラが772名、こどもネウボラが327名である。

1歳未満のお子さんの相談が約半数を占めているが、新型コロナウイルス感染症の影響で予約制としたことや、働く母親が増加していることもあり、年々相談者は減少している。

主な相談内容とそれに対する支援やアドバイスについては、出産や子育てに関することや、実家が遠くて周りのサポートがないことに対する相談が多く、その際は、支援サービスの紹介を行っている。また、健診で血糖値が高かった妊婦さんに対しては、妊娠中の食事の指導を行っている。コロナ禍で両親教室やマタニティスクールが中止となり、沐浴実習などの受け皿としても対応した。そのほか、離乳食や子どもの発達、イヤイヤ期、保護者の心のケアの相談に対応することが多い。相談の際は、認めることや、強制せずにアドバイスすること、一緒に解決策を探すことを心がけており、相談に対応するスタッフの研修も行っている。

【委員 C】

ネウボラについて、開始当初に想定した効果と現時点で判明している効果について差異はあったのか。また、当初想定した以上に効果が大きかったことや、反対に効果が認められなかったこと、今後の課題などがあれば教えてほしい。

【説明者】

効果の差異について、ネウボラは18歳までの子育て期を対象としており、中高生本人からの相談も受ける体制にしているが、保護者からの相談はあっても、本人からの相談は少ない。

効果が大きかったことについては、妊婦さんや子育て中の市民に広く関わることができるようになったことや、母子手帳交付時や転入時にネウボラをお渡しすることで、早めにファーストコンタクトの機会が持てるようになり、育児に困って助けが必要になる前から予防的に支援ができるようになったことである。また、ネットワーク型の支援により、関係機関との連携や情報共有がしやすくなり、母子保健担当だけで抱え込まないようになった。

効果が認められなかったという点は把握していないが、課題はあると感じており、ちとせ版ネウボラが安心して相談できる場であることや、感染の不安から利用控えにならないような周知が必要だと考えている。

また、学童期以降の相談体制の充実も必要であり、家庭や学校で相談しにくいことでも相談できるということを伝えていきたい。

【委員 E】

指標の設定が良くないのではないか。これで本当に正しく施策の評価ができるのか疑問を感じる。母子手帳交付時にネウボラを渡し、後日改めて相談に訪れた人はどれくらいいるのか。

【説明者】

令和3年度は17名である。

【委員 E】

約770名に配布し、17名を対象としたアンケート結果では、サンプル数が少なすぎるので、うまくネウボラが機能しているかの判断材料にはならないと思う。

また、3歳児の虫歯患率や妊娠中の喫煙率を下げる活動をこの施策で行われているのであれば、この施策の成果として捉えられるが、このような活動をどの程度しているのかわからない。

施策で取り組んだことが正しく反映される指標を設定する必要があると思う。担当課の努力が

見えるようになったほうがよいのではないかと。また、貢献度がすべて a で効率性もすべて 1 というのも、本当に正しく評価されているのか不安感がある。

【アドバイザー】

喫煙や虫歯り患があった場合には、どのようなアプローチをしているのか。

喫煙についてアドバイスをを行った場合、その後、喫煙をやめた率を出したほうが担当課の頑張りが指標に表れると思う。

【説明者】

ネウボラの交付時などにアンケートを記入していただき、喫煙率を把握している。喫煙されている場合は、保健師の支援対象になり、その後の様子などを聞き、アドバイスをしている。虫歯り患があった場合は、その場で指導しているが、その後の成果は把握していない。

【委員 E】

現状把握は、家庭環境が反映されているため指標にならない。担当課の努力が見えるような指標にしたほうがよい。そのような指標にすることで、努力しているのに良い結果がでない際、社会的な問題があることに気づくことができる。

【委員 G】

ネウボラは不安があるから相談しているので、満足度が高くなるのは当たり前ではないか。ネウボラの利用率を出したほうがよいのではないかと。

【委員 B】

お母さんが安心していられるのは父親の協力も必要である。父親による受動喫煙や甘いものを食べさせるなど、父親に対する指導はしているのか。

【説明者】

父親のほうが喫煙率は高いため、母子手帳交付時にその場で指導している。しかし、セミナーなどに来る父親はすでに子育てに関心がある人が多いので、指導する機会はあまりない。来ない人ほど課題があるので、その親族の方などにお伝えしている。

【委員 E】

事業項目が多いが、各事業がどのようにつながっているかわかる体系的な図はあるのか。

【説明者】

ネウボラファイルの中に、ライフステージごとの図がついている。

【委員 E】

細かなくてよいので、一目見てわかるものがあるとよい。

【委員 D】

千歳市の出生率はどのくらいか。千歳市は、道内一若いまちと言われているが、出生率が低ければ何らかの対策をしないとイケないのではないかと。

【説明者】

令和元年度の出生率は、人口 1000 人に対して、千歳市は 8.4 人、北海道は 6.5 人、全国は 7.0 人である。合計特殊出生率については、千歳市は 1.46 人、北海道は 1.24 人、全国は 1.36 人である。

【委員 B】

「子育てするなら、千歳市」というキャッチフレーズがあったが、現在も使われているのか。また、現在も子育て施策がたくさんあるのか。

【説明者】

現在もそのキャッチフレーズを使っている。施策も多くある。

【委員 A】

母子手帳交付時から保健師の支援が始まると思うが、ニーズキャッチはどのように行っているのか。

【説明者】

ネウボラに関しては、健診に来た人やネウボラの利用者にアンケートを取っている。

【委員 B】

里帰り出産の方に対する支援は行っているのか。

【説明者】

住所地にかかわらず、現在地での支援を行っている。全国どこにいても、市町村間で保健師が連携を取っており、里帰り出産で他市から千歳市に来る場合は、他市から連絡が入り、千歳市の保健師が訪問などを行い、支援している。

【委員 G】

千歳市民病院では出産制限はあるのか。

【説明者】

昔より出産数が減っているので、現在制限はない。

【委員 E】

里帰り出産の支援などについて、数値を把握し、伝えてはどうか。評価できるポイントだと思う。

【アドバイザー】

近年では、男性にも育休を取得するような政策が進められている。育休中の男性からの相談を受け入れることはあるのか。また、特定妊婦への対応はどうなっているのか。

【説明者】

父親の育児ノイローゼの数は抑えていないが、仕事が原因で元々、父親の精神状態が悪い事例がここ数年で何件もある。父親の産後うつも話題になっており、令和 2 年度から企業に対して、ポスターの掲示などを行っている。

特定妊婦については、こども家庭課と情報共有しながら、地区担当の保健師が積極的にアプローチしている。

【アドバイザー】

技能実習生や留学生などの外国人に対する支援は、病院と連携がとれているのか。千歳は道内でも外国人の人口割合が高い。

【説明者】

市内の病院とは連携がとれており、どのような方が母子手帳を取りにくるかなど、病院から連絡がある。市外の病院と連携をとることは難しい。

【アドバイザー】

「こんにちは赤ちゃん訪問」などは児童委員と連携した対応など、市民と一緒に取り組むことはないのか。

【説明者】

4 カ月までの赤ちゃんは専門職で対応している。

【委員 G】

自分の息子のことで保健師さんに相談したことがあり、保健師さんの言葉に助けられた経験がある。

評価

【委員 E】

評価指標の設定について課題がある。担当課の努力が反映されていないと思う。

【委員 A】

アンケート調査では、ニーズが高いが、評価が高くない。ニーズとシーズのマッチングがうまくできていないと感じる。

【アドバイザー】

事業項目が多くて、どれが自分に当てはまるのか、市民にとってわかりにくいのかかもしれない。

【委員 A】

全戸訪問の効果がいかされていない。個別への対応力は高いと思う。

【委員 C】

やっていることはかなり緻密であるが、評価シートの指標には、反映されていないのもったいないと感じる。

【委員 G】

ネウボラファイルを全対象者に配布しているのに、なぜ利用者が少ないのか不思議である。

【委員 C】

あのファイルにすべて載っているので、いちいち相談しないのかかもしれない。

【委員 F】

分厚いものをもらっても、見ないのかかもしれない。

【アドバイザー】

いざ困ったときに、それぞれの家庭で使用されているのなら評価できる。

【委員 E】

ネウボラファイルは最後の受け皿として使用されているのならよい。一目見てわかる簡単な表などがあればもっとよい。

事業数が多くあり、それぞれの事業が推進されているので、「維持」でよいのではないか。

—意義なし—